

翻訳にあたってのヒント

その 49

色にちなんだいろいろな英語

第 6 回

数回でこのシリーズを終わらせる予定であったが、範囲が広いこともあって、あと 4、5 回は続きそうな気配である。

● Green

「緑、green」は植物の別称であり、「草木の葉のごとき色」は、英語でも”the color of growing grass”などといい、この他にも、Greengrocer を「八百屋」、green stuff を「野菜」、green thumb を「園芸の才」などと称す。ところが、英語の green は日本語で「青」と表現されるものに対応することが少なくない。日本語では、草木の葉の色に「青」を当てることが多く、野菜は「青物」、八百屋は「青物屋」であり、草木は「青々と繁る」。「分け入っても分け入っても青い山 (Wading through, And wading through, Yet green mountains still.)」は山頭火の名句。俳句の季語では、植物の色を緑で呼ぶことはごくまれで、もっぱら「青」を用いている。日本語の過去をたどると、青のほうがはるかに古く、緑は新しいことばであり、かつては草木の色から澄んだ空の色までをすべて青と呼んだそうである。

生き生きとした植物のイメージからの派生であろうが、green には「元気のよい」「新しい」「新鮮な」「活気ある若さ」といった意味がある。In the green year は「繁栄の時代」、green old age は「老いてますます盛ん」。ちなみに、漢語の「青血」は体から出たばかりの鮮血。さらにこれが展開され「未熟さ」「準備不足」「未体験」という意味も表す。Green cheese は「生チーズ」、greener は「未熟練労働者」、greenhorn は「初心者」、green as grass は「世間知らず」。このニュアンスでは日本語でも「青二才」という言葉が使われている。とはいえ、日本語にも「若さ・未熟さ」を「みどり」で表す例がないわけではなく、「嬰兒 (みどりご)」が乳幼児を指す場合に使われることがある。さらに「緑の黒髪」も、つややかで生き生きとした毛髪を示す語である。

これらに加えて、green には、「嫉妬深さ、ねたみ」といった悪いイメージもある。例えば、Green-eyed monster は「嫉妬」のことで、これはシェークスピアの『オセロ』に登場する怪物から普及したという。ちなみに漢語で「緑眼」は文字どおり緑色の目をした人種、胡人 (古代、中国北方・西方の異民族の人・のちに西域民族の総称) を指す。「青眼」ともなれば、死眼ではなく活眼、そして喜んで人に応対する目つきをいう。晋の阮籍 (げんせき) が、好きな客には青眼を向け、嫌いな人には白眼で相対したという話が出典である。またドル紙幣が緑色で印刷されていることから、金銭を表す場合もあり、Greenback が「紙幣」、green power が「財力」のことを示す。さらに、「安全・進行・衛生」を伝える信号の

色に由来するのか、俗語で **in the green** は「安全な状態」を意味する。

緑系色の英語表現：

▼ **Her roses are so beautiful because she has a green thumb.** バラの栽培がうまいので彼女のバラはよく育つ。

▼ **Helen was green with envy when Betty bought a new car.** ベティが新車を買ったことに対して、ヘレンは強いねたみを感じた。

▼ **He hopes to get the green light on his graduate thesis soon.** 彼は自分の卒論のテーマに対してすぐゴーサインが出るのを希望している。

▼ **Jim is always changing his major because he thinks the grass is always greener on the other side of the hill.** ジムはいつもほかの学科がよく思えて、絶えず専攻学科を変えている。

▼ **David is as green as grass.** デイヴィッドはまったくの世間知らずだ。

■ **green light** 許可、(正式な) ゴーサイン

give the green light (許可を与える・出す)

get the green light (許可を得る)

■ **greenhorn** 青二才 (経験の浅い人、未熟な人、未熟者、世間知らずのウブなやつ、だまされ易いやつ、カモ)

■ **be green with envy** ひどくうらやましがる、非常に嫉妬する

これにて、第 49 回目終わり。